

## 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 19年 10月 2日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2871700676		
法人名	医療法団体 うしお会		
事業所名	グループホーム おのころ		
所在地	南あわじ市八木寺内1140-6 (電話) 0799-42-7360		
評価機関名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会		
所在地	神戸市中央区坂口通2-1-18		
訪問調査日	平成19年8月6日	評価確定日	平成19年10月4日

## 【情報提供票より】(平成 19年 7月 1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 5月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 16人, 非常勤 1人, 常勤換算	14.9人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての	1 ~ 2 階部分	

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	16,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

## (4) 利用者の概要(7月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	16 名
要介護1	0 名	要介護2	11 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.2 歳	最低	71 歳	最高	92 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	八木病院、後藤歯科医院
---------	-------------

## 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

幹線道路よりやや道に入った場所にホームがある。母体の八木病院が隣接し、ホームの周囲は田畑であるが、最寄のバス停からも近く、幹線道路をやや自動車が進めばスーパーマーケット等がある旧三原町の中心部に出る。開設後3年目のホームであり、開設から約半年かけて利用者が定員に達したこともあり、職員と利用者が少しずつなれながら入居しており、管理者を始め職員と利用者との関係や信頼関係が築かれている。職員育成については外部の研修参加や他の事業所との交流など積極的で、ホームとして意欲的にサービスの向上に取り組んでいる。今後は、ホームが地域の一員として自治会等に参画し、相互の協力体制がぐまれ、利用者の活動の場を広げたり、運営推進会議の開催等で地域の目をホームに取り入れ、意見をもらうことでより良いサービスにしていく取り組みが期待される。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	第三者評価を受けるのは今回が初めてである。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	自己評価は職員全員が個々に自己評価を行い、会議で話し合っまとめている。評価の意義や内容を理解し、自己評価の段階でも課題が明らかになれば改善に向けた検討を行なっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	運営推進会議の開催はまだできていない。会議の開催に向けて市への働きかけ等準備中であるため、早期の実現が望まれる。利用者・家族や地域の代表者の意見をホーム運営に活かし、ホームの実践やサービス評価内容に関して報告・協議する等、サービス向上に取り組むことが期待される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	ほとんどの家族は月に1回以上ホームを訪問し、家族と利用者を変えて利用者の話したり、身体状況、行事の様子等の近況や作成した作品について話したり、領収証を渡して金銭管理の状況を伝えている。家族から出された意見や要望等は職員間で話し合い、ケア等に反映するようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	地域の方がボランティアにホームを訪れたり、近隣の方が農作業をしている時に会話をしたりしているが、地域の自治会や老人会等への関わりはもてていない。近隣の自治会等の組織や活動を把握し、ホームが地域の一員として参加できるための積極的な取り組みが望まれる。

## 2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念として「地域に親しまれ信頼される施設」を掲げており、これをベースにして地域密着型サービス独自の方針を定めている。		グループホームが地域密着型サービスと位置づけられたため、今後地域とホームや利用者との関係を考えていくことで、ホームの理念・方針を再検討することが望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の間でも利用者への関わり方に違いがでてくるので、小さなことでもミーティングを行い確認しあっている。月に1回の職員会議でも取り上げ、常に意識できるようにしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方がボランティアにホームを訪れたり、近隣の方が農作業をしている時に会話をしたりしているが、地域の自治会や老人会等への関わりはもてていない。		近隣の自治会等の組織や活動を把握し、ホームが地域の一員として参加できるための積極的な取り組みが望まれる。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員が個々に自己評価を行い、会議で話し合っまとめている。評価の意義や内容を理解し、自己評価の段階でも課題が明らかになれば改善に向けた検討を行っている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>開設後より、運営推進会議の開催はまだできていない。</p>		<p>会議の開催に向けて市への働きかけ等準備中であるため、早期の実現が望まれる。利用者・家族や地域の代表者の意見をホーム運営に活かし、ホームの実践やサービス評価内容に関して報告・協議する等、サービス向上に取り組むことが期待される。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の担当者にはホームの運営や制度上のわからないこと、質問等を積極的に行ない、連携しやすい関係を築いている。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ほとんどの家族は月に1回以上ホームを訪問し、利用料は可能な限り振込みにせずホームに持参してもらって利用者とお話する機会を多くとれるようにしている。家族と利用者をお互いに話したことで、身体の状態、行事の様子等の近況や作成した作品について話したり、領収証を渡して金銭管理の状況を伝えている。また行事の写真や身体状況については送付することもある。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情や相談の窓口は市などホーム外のものも含め伝えている。家族の訪問の際には気軽に話をしてもらえるように伝え、積極的に話し、聞いたことについては職員間で相談しケアに反映させるようにしている。また家族会がないため昨年10月には1度、ホームの行事とあわせて家族が集まる機会を作り、食事をしながら話を聞く機会を設け、今年も実施予定である。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内の他の事業との異動は可能な限りしないようにしている。またユニット毎の職員は固定しておらず、全員が2つのユニットで勤務している。退職があっても事務上の手続き等でホームにも顔をだし、新任の職員は徐々に利用者全員が馴染めるようにしばらくは他の職員と行動している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>開設時から職員の交替はほとんどなく、開設前には時間をとって他のグループホームに実習に行き、また認知症実践者研修にも順番に参加できるようにしている。法人内で行なう研修への参加や、地域の連絡会に加入しているので、連絡会主催の研修等、必要な外部の研修には、出張で参加できるようにしている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県の連絡会に加入しており、また市内や淡路島内の他のグループホームと相互に見学や職員を派遣しての研修等を行なっている。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>サービスの利用が決まると、利用開始前までに何度か計画作成担当者等が訪問し、利用者の状況を把握したり、利用者・家族と信頼関係を形成できるようにしている。</p>		<p>開設後から徐々に定員まで利用者が増えてきた状況であるので、今後新規に利用相談等がある場合は、昼間に短時間遊びに来ていただく等、ホームの雰囲気を感じられる機会をもつことが期待される。</p>
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者からは畑仕事や昔の歌等を教えてもらい、時には悩み事を聞いてもらうなどして、一緒に生活するうえで言いたいことを言い合える、互いに悩みを出し合える関係作りに努めている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用前の家への訪問の際には利用者や家族の意向を可能な限り聞き取るようにしている。認知症の軽度の利用者が多く、ケアの際には必ず意向を聞いている。意向を聞き取ることが困難な場合は家族と相談し、また利用者の様子をよく見てミーティング等で話し合うようにしている。</p>		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用を開始して間もない時は計画作成担当者等2名で仮の介護計画を作成し、3ヶ月程度様子を見ている。計画を見直し新たに作成する際には職員が小チームにわかれ、チームで重点的に担当する利用者を決め、家族等の意見も聞きながら素案を作成し、その後職員全員で話しあって決めている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の長期・短期目標の期間が長く、短期目標にあわせて3～6ヶ月に1回の見直し、及び状況に変化があったときに見直している状況である。</p>		<p>計画をよりいっそう具体的なものとするため、目標の期間設定を再検討し、計画に沿ったケアがなされているか、また予防的な視点で計画を変更する必要があるかをみるためにも、1ヶ月に1回程度は計画を改めてチェックすることが望まれる。</p>
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制をとっており、週に2日と必要に応じて看護師がホームを訪問し、健康管理面での支援や相談を行なっている。また利用者の知人の葬式が地域であれば利用者の希望により付き添っていくなどしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援  利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については入居の前に利用者や家族の希望を尊重して決めている。必要に応じて家族と受診に付き添い、医師に対して利用者の状況説明をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現状では医療との連携等体制が整っておらず、終末期のケアは対応していない。利用開始時にホームで対応できる範囲を説明して同意を得ているが、利用者の疾患や身体状況の重度化に伴って一律に判断せず、医師や家族とも話し合い利用者の医療依存度の状況にもよるが、可能な限り希望を尊重するようにしている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	利用者一人ひとりに合わせた名前の呼び方や、話かけの言葉を用いている。個人の記録等も職員が事務を行なうスペースの、外からは見えにくい棚にしまっている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな1日の流れはあるが、画一的な日々のプログラム等は決まっておらず、利用者のペースに合わせている。洗濯を一緒にしたり、居室で過ごしたり、共用スペースでおしゃべりしたりと、思い思いに過ごせる時間もあり、さりげなく新聞や広告を置いていつでも見れるようにしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望を聞きながら職員が立てているが、差し入れがあったり、その時々利用者の意見で変更になることもある。利用者と車でスーパーに買い物に行ったり、味付けを教えてもらったりしながら調理の好きな利用者と一緒に作り、一緒に食べている。洗い終わった後の食器拭き等も皆でおこなってもらえるようにしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在のところ入浴日は週に3回で月・水・金の午後と決まっており、その時間帯の中で利用者は交代で入浴している。1人で入浴できる方は浴室の外で見守りをしている。		現在入浴日の設定など検討中であるので、利用者の希望を引き出し、尊重される体制とすることが期待される。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫の得意な方にはランチョンマット等の縫い物をしたり、ホーム敷地には菜園があり、何の苗をどのように植えたらよいか指導を受けて、水遣りや、皆で野菜を収穫できるようにしている。洗濯物干しやたたみ、リビングで広告を折って小物を作ったり等好きなことをできるように準備している。		飲酒・喫煙は禁止となっているが、楽しみにされている方がお酒を飲める機会を設定するなど、嗜好が満たされるための取り組みの検討が望まれる。
25	61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	2日に1日程度は食事の買出しにでるので希望者は一緒に行っている。気候を見ながらホーム周辺に散歩にも出ている。		利用者一人ひとりの個別の希望に可能な限り添えるように、職員体制の検討などを行なう意向があるので、実現が期待される。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や居室の窓は鍵をかけず、ベランダ等には自由に出入りできる。各ユニットの出入り口は鍵がかかっておらず、ホームの表玄関のみ内側から暗証番号で開く仕組みになっている。しかし裏口は一般的な手動のロックなので、利用者は時々ロックを外して外に出かけるが職員は見守っている。		ホーム玄関の自動ドアはシステムの都合上、すぐに自由に出入りできるものにはなりにくいですが、長期的に改装等も視野に入れて今後の検討が期待される。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>隣接の病院と合同で防災訓練を行なっている。ホーム独自で避難シミュレーションを行いマニュアルも作成している。しかし、近隣の地域の協力を得られる状況にはまだない。</p>		<p>今後、地域との関係を築いていくことにより、協力を得られるよう働きかけていくことが望まれる。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>開設当初からは栄養士に内容を見てもらいアドバイスを受けていたが、現在はそのアドバイスを元に食材や栄養バランスが偏らないように献立を考えている。利用者が食べた食事量や摂取した水分量は記録しており、糖尿病等特別な配慮の必要な利用者も合わせてバランスが取れるように支援している。</p>		<p>時には実際に利用者が食べた内容を元に栄養士等から助言を得るなどの取り組みが期待される。</p>
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>内装は木を基調としたづくりで天井が高く、窓も大きいので自然の光がよく入り、風の通りもよい。ホーム玄関や各ユニットの玄関には花を絶やさないように飾り、壁には絵画や書、手作りのパッチワークの作品が飾られている。ソファに座ったり、敷物や畳を敷いてそこに座って作業ができるようにもしている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ベッドとキャビネットが備え付けであるが、それ以外は使い慣れたものを持ち込んでもらうように働きかけている。仏壇や整理ダンス、イスやテーブル、家族等の写真を飾ったり、読書のための本を持ち込んでもらっている。</p>		

 は、重点項目。